

先人が拓いた故郷を後世に

長崎県西海市の奥野原開拓は、西彼杵半島^{にしそのぎ}の北部に位置し、標高250～275mの山あいにある。西には国指定の天然記念物の七ツ釜鍾乳洞がある。北には道の駅さいかい「みかんどーム」があり、地元の特産品が取り揃えられている。

この地は玄武岩地帯の酸性土壌で、畑地として適しているとはいいがたい土地であった。

昭和49年に緊急開拓地区の指定を受け、40戸が入植した。

西彼杵半島では、開拓地が養蚕や種馬鈴薯の新興産地となっていた。しかし、複雑な地形と交通が不便なため、県下で最も開畑が遅れることとなった。

特に、道路の整備がされず、農産物の販売や生活の弊害となっていた。

当初は、サツマイモ、麦、雑穀などを栽培していたが、強酸性土壌のため収量は少なく、困難な状況が続いた。

土壌改良のため、酪農や肉用牛肥育が始まり、やがてミカンの栽培も行われるようになった。

65年には開拓道路4路線ができたが、未舗装のため、農産物の搬送には苦労があった。

それでも、開拓特有の団結力をもって、今日の故郷を切り開いてきた。

95年、在住者により拓魂碑が建てられた。碑文には、先人の苦労と誇りが刻まれている。

奥野原地区 4 2 - 3 1 1 - 2

①調 査 日 平成 30 年 1 月 18 日

②所 在 長崎県西彼杵郡西海町

③地 区 の 沿 革 西彼杵半島の北部再開町の中央部東側に位置。標高 250～275m玄武岩地帯、酸性土壌。当初入植者 40 戸。当初、甘藷、麦、雑穀、その後、茶、酪農、みかん栽培。その後、酪農、蔬菜、養蚕。

④設 置 年 月 日 平成 7 年 3 月

⑤設 置 者 奥野原地区在住者

⑥碑 文（表面） 拓魂

我々は 風雪五十年を 生き抜いた さむらいである 世とともに 語りつたえよ
ふるさとの 野山拓きし 父母の若き日を 奥野原開拓

⑦碑 文（表面） 平成七年奥野地区在住者氏名

建設委員 6 名氏名 平成七年三月吉日建立

⑧現 在 の 状 況